

令和4年度 第1回茅ヶ崎市総合教育会議 会議録

議題	茅ヶ崎市実施計画2025について
日時	令和4年6月16日（木）午後4時00分～午後4時55分
場所	市役所分庁舎5階 特別会議室
出席者氏名	総合教育会議委員 佐藤市長 竹内教育長 赤坂教育長職務代理者 伊藤委員 大森委員 中馬委員 (事務局) 機構順 坂田企画部長 岩井企画部企画経営課長 脇領企画部企画経営課課長補佐 村上文化生涯学習部長 三浦こども育成部長 中山教育総務部長 島津教育総務部教育総務課長 戸井田教育総務部教育総務課課長補佐 白鳥教育推進部長 青柳教育推進部教育指導担当部長
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 「茅ヶ崎市実施計画2025」策定の進め方について ・資料2 「茅ヶ崎市実施計画2025」策定スケジュール ・資料3 実施計画事務事業の優先度の判断ポイント ・資料4 「政策目標1」「政策目標4」事業一覧
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者	0人

○教育総務課長 本日は、お忙しい中会議にご出席をいただきましてありがとうございます。

教育総務課長、島津でございます。よろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、傍聴者及び資料の確認をさせていただきます。

本日、会議の傍聴者はいらっしゃいません。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。事前に送付させていただきました資料ですが、本日の次第、資料1、「茅ヶ崎市実施計画2025」策定の進め方について、資料2、「茅ヶ崎市実施計画2025」策定スケジュール、資料3、実施計画事務事業の優先度の判断ポイントについて、資料4、政策目標1、政策目標4、事業一覧でございます。過不

足はございませんでしょうか。

それでは、ここからの議事進行につきましては、茅ヶ崎市総合教育会議運営要綱第3条に基づきまして、本会議の議長であります佐藤市長にお願いをいたします。よろしく願いいたします。

○佐藤市長 では、皆さん、よろしく願いいたします。ただいまから令和4年度第1回茅ヶ崎市総合教育会議を開催いたします。

次第に沿いまして、議題である茅ヶ崎市実施計画2025について事務局より説明をお願いいたします。

○企画経営課課長補佐 それでは、企画経営課の脇領と申します。よろしく願いいたします。

今ありました議題、茅ヶ崎市実施計画2025につきまして、資料に基づいてご説明をさせていただきます。

資料は1から4を使って説明させていただきたいと思います。

では、資料1をご覧ください。パワーポイントの資料になります。「茅ヶ崎市実施計画2025」策定の進め方についてというところでございます。

現在、茅ヶ崎市では、来年度を計画初年度といたします実施計画の策定作業を進めておるところでございます。教育の分野につきましても、他の政策分野と同様に、今どういった事業を向こう3か年でやっていくかというような精査を行っているところでございます。先立ちまして、総合教育会議の皆様はその進め方等について少しご説明をさせていただきたいと思います。

では、資料1、1ページ目をおめくりいただいて、さらに2ページ目をご覧くださいますと、茅ヶ崎市の総合計画についてというところで、まず、前段となります総合計画とはどういったものかといったようなところから話をさせていただければと思います。

スライドの3枚目になりますが、「体系と計画期間について」をご覧くださいければと思います。現在の茅ヶ崎市総合計画につきましては、令和3年度、2021年度から令和12年度までの10年間の計画というところで、まちの将来像を定めた総合計画をまず策定をしております。その中では、将来の都市像と都市像を計画的に実現するための政策目標を掲げた構成になっております。その計画をアクションプランとして、冒頭申し上げました実施計画の策定を今進めているというものになります。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響がございまして、策定を2年間延期したという

イレギュラーな経過がございまして、本来であれば5か年の実施計画をつくる予定でございましたが、総合計画がスタートした令和3年、それから今年度については、コロナの状況を見定めながらというところで、実施計画の策定を延期していたというようなちょっとイレギュラーな状況になってございます。

では、資料をおめくりいただきまして、少し総合計画の中身についてご紹介させていただきたいと思います。まず、総合計画のコアになります将来の都市像につきましては、約3年前に様々な市民の皆様とのワークショップなどを行いまして、将来の都市像を「笑顔と活力にあふれ みんなで未来を創るまち 茅ヶ崎」というようなものを掲げさせていただいております。それぞれの言葉、ワードに込めた思いというのは、パズルの形になっておりますが、そこに込められたような思いが言葉に込められてございます。

続いて、次のスライドでございしますが、政策目標についてでございます。画像データを貼り付けて、ちょっと見にくくなって大変恐縮でございますが、今申し上げました将来の都市像を実現するために、政策目標を7プラス1というところで、合計8つの政策目標を掲げさせていただいております。

今回、総合教育会議というところで特に色濃く絡む政策目標としては、画像でいいますと左手の真ん中、政策目標1となるんですけれども、「子どもが希望を持って健やかに成長し、次代を担うひとが育つまち」というような目標を掲げて、こちらに学校教育ですとか、子育て支援といったような目標を掲げてございます。

それから、その画像の右側の上段部分、政策目標4になりますが、「誰もがいつでも学べ、生きがいを持って自分らしく暮らすまち」で、学びの機会の充実というところで、生涯学習ですとかあるいは社会教育といったような分野の目標をここで掲げさせていただいております。

続いて、スライドをおめくりいただきまして、ページ数でいいますと5になりますが、成果指標をそれぞれの政策目標に掲げさせていただいております。今申し上げた政策目標1「子どもが希望を持って健やかに成長し、次代を担うひとが育つまち」につきましては、「子どもを育てやすい環境」への市民の満足度といったところですか、あるいは特にここが学校教育に色濃く絡むところですが、「自分には良いところがある」と思う児童の割合、生徒の割合といった自己肯定感を指し示すような指標を目標に掲げております。

それから、政策目標4につきましては、「学びの機会や文化・芸術、スポーツに触れる機会」に対する市民の皆様への満足度を定点観測で市民意識調査を行っておりますので、そ

の割合を指標に掲げて、この10年間取り組むこととしております。

次のスライドをご覧くださいますと、行政運営の基本姿勢についてというところで、私たち市の職員がどういう姿勢でこの10年間、その目標の達成に向けて臨むかというような姿勢を示したものでございます。大きく分けまして、未来創造への挑戦と市民との関係の深化というところで掲げさせていただいております。

以上が総合計画の概要となりまして、これが10年間の市の道しるべとして今取り組んでいるところでございます。

スライドをおめくりいただいて、7の表紙から、では、本日の本題でございます実施計画2025の策定の進め方についてご説明をさせていただきます。

まず、先ほども申し上げましたように、今ご説明いたしました総合計画のアクションプランとして、実施計画2025を策定していくところでございます。

8枚目のスライドをご覧くださいますと、位置づけとしては、再三申し上げていますが、総合計画の実行計画、アクションプランであるということと、それぞれの施策目標、それから具体的な手段である事務事業をここで具体的に定めていくこととしております。そして、後ほどまた詳細をご説明いたしますが、特にこの計画をめり張りを持って進めるという観点から、特に重点的かつ分野横断的に取り組むべきテーマを重点戦略として位置づけをしていくというところでございます。詳細は後ほどご説明させていただきます。

計画の名称につきましては、茅ヶ崎市実施計画2025というところで、計画目標年度であります2025を目指すという意味合いでこのような名称にし、令和5年度から令和7年度を計画期間としております。

資料をおめくりいただきまして、総合計画との関係というところで位置づけを構成イメージでお示ししてございます。

次のスライドからは、これまでの実施計画との違いを説明しておる資料になります。これまでの実施計画は、ご覧になられた方もいらっしゃるかもしれませんが、かなり分厚く詳細に書かれた総合計画を、前の令和2年度までの計画は策定しておりました。実施計画についてもかなり分厚い、300ページにも及ぶような実施計画をこれまでつくってまいりましたが、その結果として、行政事務の内部管理計画としての役割に比重を置き、かなり規律性の高い実施計画をこれまで策定してきたという経過がございました。

ページをおめくりいただきまして、この実施計画のつくり方については、もちろんよ

かった点、悪かった点が様々ございまして、成果としては、かなり経営感覚を持って、総合計画へ意識を持って、教育委員会に限らず多くの部局が総合計画の下、事業を行ってきたというような成果もある一方で、課題としては、前の総合計画の10年間は東日本大震災から始まるなど、かなり災害の発生など予期せぬ状況が生じることもございました。そういったことに対して、なかなか柔軟性のない計画になってしまったというような課題も踏まえまして、12枚目のスライドになりますが、これからの実施計画については、まず、これまで培ってきた政策形成能力をさらに磨き上げて、一つでも多くの行政課題を克服する、それから、時代の変化に対応できるように柔軟性を持たせた組織を構築し、柔軟性や冗長性、今回のコロナに限らず様々な災害が起きても対応ができるような体制を整えていこうというようなこと、そして、計画自体、市民の皆様はどういったことを茅ヶ崎市はこれからやっていくのかということを見やすくなるように、外部の方にも分かりやすい計画になるようにというようなところを一つ考え方として示させていただいております。

ページをめくりまして、策定の基本的な考え方として、これまでの実施計画は、今ご説明しました、かなり比率度を高くして、全ての市役所、教育委員会をはじめ市役所の行っている仕事全部を実施計画として位置づけをしてまいりました。かなりの労力を要するところもございましたので、今度の実施計画では、特に新規の事業ですとか、継続して充実していこうとしている事務ですとか、ハード整備などに、この計画書に載せるもの自体はそれに限定をしていき、14枚目のスライドにあるように、これまで行ってきたような事業についてはしっかりと見直しを図りながら、継続するものはしっかりと継続していくというような姿勢で計画づくりをしていきたいと思っております。

ページをおめくりいただいて、15枚目のスライドからお金の話になります。財政見通しとの整合というところで、もくもくもくとしたところがカラーバリアフリーの配慮がなされてなくて大変恐縮なんですけれども、これまでも財政が厳しいというお話はされて、お聞きになっているかとは思いますが、ともすると経常的に入ってくる歳入で、今申し上げたような継続的にやらなければいけない事務事業の歳出等もニアリーイコールになってしまうような状況が、もろもろの財政指標などから読み取れるところでございます。そういったものを何とか解消し、将来茅ヶ崎市をよくするための政策的な事業の財源を生み出すという点でいいますと、歳入の増加策ですとか、歳出の削減策の両面から財源を生み出して、実施計画の先ほど申し上げた新規事業ですとか、拡充する事業に財源を充てていくというようなところで、事務事業の不断の見直しを繰り返しながら新しいことに

も着手していこうというような考え方を示させていただいております。

資料をめくりいただきまして、17ページから18ページ目でございますが、今お金の話でございましたが、さらに策定に当たり考慮すべき状況といたしましては、まずは人口の推計をよく見定めようというところで、直近で令和2年度の国勢調査に基づいて人口推計を行ったところでございますが、かなりコロナ禍の影響もあるんですが、茅ヶ崎市は引き続き転入増という状況になってございます。そういったところも踏まえながら事業を立案していこうと。また、新型コロナの影響など足元の動向をしっかりと見詰めて事業立案に生かしていく。あるいは、先ほど申し上げました財政見通しをしっかりと行った上でその状況を反映させていく。それと、国連の定めましたSDGsのほか、予想される変化をしっかりとらまえて実施計画をつくっていこうというようなところを取り巻く状況として示させていただいております。

ページをめくりいただきまして、20枚目をご覧くださいと思います。実施計画の策定については、冒頭でも申し上げましたが、特に重点的、分野横断的に取り組むべきテーマを重点戦略として掲げていきたいと思っております。また、先ほどの政策目標をさらにブレイクダウンした施策目標を掲げ、指標を定めて計画の進行管理をしてみたいと思っております。

21ページでございます。策定体制、最後でございますが、この実施計画につきましては今内部で、教育委員会をはじめ事業の要求が企画経営課に集まっておりますので、どういったところを優先してやるかというような今まさに資料の読み込みと内部協議を進めておるところでございますが、最終的には市民の皆様との説明会、意見交換やパブリックコメントですとか、アンケート調査も行っておりますので、そういったものも反映させながら最終的な計画案をつくってまいりたいと思っております。

次に、資料2をご覧くださいまして、「茅ヶ崎市実施計画2025」策定スケジュールを簡単にご説明いたします。

今も申し上げましたとおり、内部で調整を進めておるところでございます。8月頃には一旦の採択素案といいますか、計画の素案が出来上がることを予定しております。その後、市民の皆様との説明会ですとか、市議会との意見交換会なども行いながらその内容を反映させ、最終的には年末頃までに計画の素案を固めて、3月に確定をしていきたいというような流れを考えております。ですので、この途中なりで総合教育会議などにも資料提供といいますか、ご説明する機会を適宜設けてまいりたいと思っております。

次に、資料3をご覧いただければと思います。少し具体的な中の説明になってまいりますが、今申し上げました実施計画事務事業をどう優先度をつけていくかというところが問題になってまいりますが、その判断のポイントについて、今企画経営課のほうで考えている点でございます。

まず、「事務事業の熟度が高いか。」というところで、ここがまず重要な判断ポイントになってくるかと思っております。当然実施計画に載せる事務事業を一つ一つ、庁内の関係部局はもとより、市議会ですとか市民の皆様にしかりとその内容を説明できなければならないと思っております。ですので、内容の熟度が低いというようなものになるとなかなか説明がし難くなってまいりますので、しっかり庁内の担当部局ともその熟度を高めることをしてまいりたいと思っております。

次に、「PDCAサイクルに基づき既存の事務事業の振り返りが行われているか。」というところで、最初の資料でもご説明いたしましたように、なかなか資源には限りがございますので、しっかり既存の事業と新しい事業に目的に重複するものがないかというような検討を加えながら、見直すものは見直しながら新しいものをしていきたいと思っております。

それから3つ目としては、「複数の目標達成へ相乗効果をもたらすか。」といったようなところでございます。1つの事務事業が1つの目的のためだけにやるものでもないと思っております。例えば学校の施設を整備するというところは、そこに通う児童・生徒の皆さんのためでもあります、あるいは避難所としての役割も担うわけでございます。そういう複数の目標達成に相乗効果をもたらすことはないかというような点をしっかり考えながら事業の採択をしていきたいと思っております。

次に、「計画期間中に実施することが適切か。」というところで、令和5年から7年度の社会情勢などを見定めながら、その時期にやらなければいけないものなのかというところをしっかりと判断してまいりたいと思っております。

また、「市民ニーズの重要度が高いか。」というところで、今、市民意識調査を2月から3月にかけて実施して、今その結果をまとめておるところでございます。そういった調査結果なども捉えながら、市民の皆様はどういう政策に重要度が高いと評価をされているかというようなところをとらまえて事業の優先度の判断をしてまいりたいと思っております。

それから裏面に参りまして、「施策のバランスがとれているか。」というところでござ

います。総合計画に掲げる将来の都市像の達成のため、先ほど冒頭で説明いたしました7プラス1の8つの政策目標に偏りがあってはならないと思っております。しっかり目標の均衡を失することのないよう優先度の配分をしていきたいと思っております。

最後に、まだしっかりとしたものを固めておるものではございませんが、今後、決定する重点戦略の実現にどう資するかというようなところを優先度の判断材料にしていきたいと思っております。資源に限りがございますので、どこにめり張りをつけるかというようなテーマを定めていきたいと思っております。

なお、今確定的な話ではありませんが、事務局として社会情勢などを考えますと、重点戦略のテーマ候補としては、四角囲みでお示ししておりますように、コロナ禍の教訓を踏まえた感染症に強い社会・地域づくりに資するような事業ですとか、コロナ禍で止まってしまった社会経済活動をここで改めて再興していくような事業、転入の促進を促して世代間のバランスを確保するような事業、あるいは行政事務のデジタル化ですとかSDGsの加速化、国土の強靱化、公共施設の老朽化が進む中で総合管理の推進といったようなものを一つテーマとして考えていってはどうかと、現段階の事務方では考えているところでございます。

最後に、ご紹介になりますが、資料4でございます。冒頭にありましたように、特にこの総合教育会議の中に関連の深い政策目標1、それから政策目標4につきまして現段階で事業の要求があり、今精査を行っているような事業のリストをここでお示しさせていただいております。政策目標1については52事業、これは資料裏面に教育委員会の要求内容がございますが、それに限らず、こども育成部ですとか保健所、あるいは政策目標4につきましては35事業、裏面に教育委員会教育推進部のものがございますが、文化生涯学習部のものも含めまして35事業が今上がっているところでございます。こちらについては現段階というところでございますので、今後議論が進むにつれて増えたり、あるいは減ったりというようなこともあると思いますけれども、現段階ではこのようなものがエントリーされておりますのでご紹介させていただきます。

議題の説明につきましては以上でございます。よろしくお願いいたします。

○佐藤市長 繰り返しとなりますが、実施計画2025は、本市の総合計画で示す、令和12年度までに目指すまちの姿を計画的に実現していくための具体的な実行計画でございます。ここで定める重点戦略や施策目標に基づき、しっかりと事業を進めていく必要がある重要な計画であると考えております。資料4のとおり、政策目標1と4に関する事業として、

教育委員会はもちろん、こども育成部や保健所、文化生涯学習部などを合わせて87の事業を取り上げられており、今日は、私と教育委員の皆様で幅広く意見交換をさせていただき、今後の実施計画策定作業に反映させていきたいと考えております。よろしくお願いたします。

それでは、早速ご意見等を伺っていきたくと思いますが、ご意見あるいはご質問がある方は挙手をさせていただきたいと思っております。

○赤坂委員 事務局に質問します。5ページの「成果指標」についてです。政策目標1の1番、「子どもを育てやすい環境」への市民の満足度、現状値が35.8%ととても低いんですね。市民の皆様が不満を持っておられるということなんですが、どういうことに不満を持っておられるか、分かっていますでしょうか。

○企画経営課課長補佐 ありがとうございます。これは市民満足度の調査をまとめたものでございまして、幾つかの質問項目を1つにまとめた満足度になってございます。申し訳ございません、詳細の調査結果を今持ち合わせていないので詳細がすぐお答えできないんですけれども、1つには、この満足度調査自体が5段階評価というような形になっておりますので、満足している、やや満足しているというようなところが幾つかの子育ての環境ですとか保育の環境、あるいは母子保健といいますか、子どもの健康というような幾つかの項目をまとめて今35.8%というような数字になってございます。

令和元年度の調査で、実はこれがコロナ前に行った調査でございます。コロナの影響を鑑みますと、さらに満足度が少し低下しているようなところも考えられますので、今後、実施計画の策定の中で直近の調査結果も間もなく出ますので、その状況を見ながら、どういったところに重点化をしていくべきかというところを考えていきたいと思っております。

○赤坂委員 私が見る限りで、教育委員会は正しく教育行政をやっていると思っておりますし、学校の先生方も本当によく、茅ヶ崎の先生方は頑張ってくださっていると思っております。それなのに35.8%というのを見たときにちょっとショックを受けて、どこに不満を持っておられるんだろうということが知りたかったんですね。ぜひその部分をはっきり分かるようにしていただいて、そこに坂田部長が手を打っていくと、そこを期待しております。

それから、もう1点よろしいですか。2番目も、「自分には良いところがある」と思う児童の割合、83.0%、これは相当自己肯定感が高いわけですね。これはすばらしくて、

そして、最終目標値を87%にされていますが、やっぱり必ず上げていかなければいけないというのがあるんですが、私は、80%以上あればもう本当に十分、素晴らしいことと思っています。かえって87%なんて高い目標値をつくと、87%を何とか達成しなきゃいかんみたいな形で、ちょっと歯車が狂っていくといいますか、焦り過ぎる教育を先生方がしてしまう。その心配があります。ですから、ここはもう現状維持で私はいいのではないかなと思います。

○竹内教育長 今の赤坂委員のお話に関連いたしまして、「子どもを育てやすい環境」への市民の満足度というところでは、数値としてすごく厳しい評価というふうに受け止められるところもあるんですが、これがどんなところにあるかというところでは、学校教育というようなどころだけではないんだろうなと。それだけではなくて、小さなお子さんをどう育てていくかという意味では、生活ですとか、また仕事との兼ね合いとかいろいろなところがあるなと思ひまして、そうすると、これは教育のところからも、また広く全庁的な観点から捉えていかなければいけないところだなと感じました。福祉の問題もあるでしょうし、子育て環境を整えるというようなところがあつて、これを見たところで私が感じるのは、私たち自身はしっかり視野を広げて、多面的に物事を考えていかないといけないなということを改めて感想として感じましたので、お話しさせていただきました。

○大森委員 赤坂委員と、それから竹内教育長のお話の続きのようになります、感想にもなりますけれども、1つはまず、10年間をかけた計画の中に、今年小学校に入ったお子さんたちは中学卒業まで、この計画がうまく進んでいくとその中で生活をするわけですね。そうしますと、やはり長い目で見て、この子たちが今度この茅ヶ崎を担っていくんだという気持ちを私たちが、周りの大人が見ながら、考えながら計画をぜひ考えていただいて実施するということが一つ私は重要だと思ひました。

それから、子どもを取り巻く環境ということにおいては、教育長がおっしゃったように、小学校でやればいい、学校がやればいいという問題ではなくて、もう生まれたときから始まっていて、今、子育てをする若いご両親が本当に孤立をしているという状況も目にしたり、耳にしたりします。でも、市は、保健所も含めてそういうお子さん、家庭に手を差し伸べているという現状も知ることができていますので、やはり事業計画の事業の中に、本当に欠かせないものがたくさんありますけれども、その視点で、将来を担う子どもたち、そして、子どもを育てている家庭を守っていこうという気持ちをぜひこの計画の中に、文言にはなくてもそれが表れるような形で進んでいっていただくことを願ひたいと

思っています。

それから、先ほど委員会の会議がございましたけれども、先生方が取り組んできた教育委員会の点検・評価の自己評価を伺いました。それを伺ったことと、この今回の総合計画を聞いたこと、私は重なって見ることができました。先生たちは一人一人の子どもを大事にしながら教育に関わっている。でも、なかなか1人では30人は難しいという場面もきつとおありになると思いますので、その意味では、先生方へも手を差し伸べていただきたい。

それから、めり張りを持ってこの計画に取り組んでいきたいということと、あと、緊急性が見えにくくなっているという、11ページに、課題の中に災害の発生がありました。でもそれに対して茅ヶ崎市は欠けていたのではないかという評価を先ほどされていきましたので、ぜひその辺も、何が緊急性になるのかが分かりにくいところもありますけれども、ぜひ柔軟に捉えていただいて、学校の活用なども含めて進めていただきたいと思います。

あと1つ、茅ヶ崎ならではのやはり計画案であってほしいなと思います。やっぱり住みやすいということでは、随分お家も増えてきていますし、お子さんを育てやすい環境というのが多分あるんだと思うんですね。そうしましたら、そういうところも生かせるようなことも含めた計画になるといいと願っております。

あと最後になります。デジタル化が進んでいて、小学校でもタブレットを持つ、持たないいろいろあります。タブレットを持って帰った親御さんが、勉強というよりもゲームにいつてしまうということを危惧しながらも、勉強を助けるために学校はやられているというところが分かりつつも、実際は難しい部分もあると思います。ある学校の授業では、こういう便利なものがあるよね。でも、その便利なものは1つ反対側を見ると困ったことも起きる。では、どんなことが困るかな。そんな授業をしていることをちょっと耳にしましたので、やはり主役は子どもたち、そんな茅ヶ崎になってほしいと思います。

すみません、長くなりました。

○企画経営課長 ありがとうございます。先ほどもご説明させていただいたとおり、総合計画の目指すべき将来の都市像というのが、まさに10年先とか、2030年、こういう茅ヶ崎というところで、「笑顔と活力にあふれ みんなで未来を創るまち 茅ヶ崎」というふうに定めているところです。これを実現するためには、今委員におっしゃっていただいたとおり、次世代を担う子どもたち、当然健やかに健康に、安全な環境の中で成長していくということもありますし、よい刺激、よい考え方というのを、感受性の強い時期ですからそ

ういったものを受けながら、本当に次世代を担う茅ヶ崎人として育っていくということが非常に大事ななと思っております。そういった視点を見ながら、これからの実施計画をつくっていききたいというふうに、今事務局が考えながら作業をしているところでございます。

○中馬委員 今の流れからは違うんですが、重点戦略のテーマ候補の中に、公共施設等総合管理の推進というのがあって、公共施設の老朽化が進むと書いていて、それも住んでいてとても実感としてあるので、長年、昔造られたものが古くなってくるのは当然だと思うんです。その中には、子どもたちが使うものもあれば、私たち大人も使うものも含まれていますので、関連事業の中でいろいろ上がってきているどの課に関しても、割と施設の改修工事とか、整備とかそういう事業が上がってきているので、ぜひそこから始めて、10年間の計画ということですので、まずその建物というか、母体のところから始めて、最終的にそれを安心して使えることで笑顔になっていけるのではないかなと素人ながら思っておりますので、それだけお伝えしたいかなと思いました。

○佐藤市長 ご意見ということでよろしいですか。

○竹内教育長 それでは、中馬委員からお話しされたところにつなげてのお話をしたいと思います。特に市内の公的な施設としましては、学校関係の施設がものすごく多い、半分ぐらいなんですね。そして、そのどこも皆古い。長寿命化を図りながら学校の施設をその中で最適を目指しているところではありますけれども、いずれやはり同じ時期にどんどん使えなくなるような状況が出てきてしまっは遅いものですから、早い段階から計画をしっかり練っていくという意味では、今回、教育委員会のほうでも事業として掲げている幾つかのところは、そこを意識しているというふうに考えております。これについては当然のように通うお子さんがいて、そのお子さんを送り出すご家庭があり、そのご家庭が住まわれている地域がありというところで、様々な方々の生活や思いというものをしっかりと考えて、そして拾い上げながらやっていかなければいけないという状況で、本当に綿密に、かつ大胆な発想がやっぱり必要になってくるなと考えています。

ぜひこれからの10年先とか、20年先につながるような今回の総合計画であり、実施計画でありたいと思うんですが、その中では発想をかなり柔軟にしながら、例えば、学校の施設をもっと付加価値をつけて、多くの地域ですとか、それから幅広い世代がそこでいろいろな学びができるような場であったり、様々な機能を持っていくことも大事な、そうした柔軟な発想でやっていきたいなというような思いを今持っております。

ですから、教育委員会だけではなくて、先ほど申し上げたように全庁的な視野に立ってやっていくことが新たな価値を生み出していく。これまでの価値をさらに高めていくというのはそのとおりだと思いますが、そこに向かって、本当に皆さんでしっかりと議論を深めてまいりたいと思いますが、その方向に向かって1つはコミュニティ・スクールのようなところから、地域や様々な方々の意見を拾っていけるような、そんなシステムをしっかりとつくっていったらいいなという、これも願いとして持っているところです。

長くなりましたけれども、以上です。

○伊藤委員 お尋ねしたいことがあって、資料3の1ページのところに優先度の判断ポイントということで、熟度が高いかという単語があるんですけども、これは具体的に「貢献度のロジックが不明確であるなど不確定な情報が多ければ、理解を得ることが難しくなります。そのため、企画立案の熟度が高いものを優先度の高い事務事業」にするということですけども、具体的にこんなことというのがありますでしょうか。

○企画経営課長 いろいろな視点というか、角度があると思うんですが、例えばということで1つ申し上げますと、近年、国でも地方自治体でもEBPMというものを推進しているというような考え方があります。要するに、客観的なデータ、エビデンスに基づいた施策を実現していくというところ、そういったものをしていくことで掲げている目標に貢献した事業が打てるんだというような考え方が今出ております。なかなか一足飛びに全ての事業をエビデンスに基づいてというのは難しい部分もありますが、そういったものを少し重視しながら実施事業を編成していきたいと思っております。

○伊藤委員 分かりました。エビデンスに基づいたかどうかという話となるとちょっと難しいところが実はあるんですけども、茅ヶ崎市の実施計画という中では、今もずっとお話が出てきますけれども、教育に力を入れていただくということがすごく大事なことかなというふうに思うんですね。働き方改革と言われてはいますが、働き方改革というのは教育の改革だと思いませんか。そのためにはやはり人材とか、それから教員以外の人が必要になってくると思うんですね。そういうことについてもお金を使っていくというか、そういうことも考えていかなければいけないと私は思いますので、今ここでどうこうというふうには思いませんけれども、今後考えていく中でそういうことも視野に入れながら計画をつくっていただけるとありがたいなと思うところです。

○企画経営課長 1つ例として今EBPM、エビデンスの話をさせていただきました。EBPMについては、客観的な、数値的なデータのそういうものに基づいて施策を立案して

いくということですが、一方で定性的なというか、現場の状況を踏まえた中でどういったことをやっていくかということも非常に必要な視点だと思っていますので、その辺のバランスを見ながら事業の取捨選択というのを、どういったものやっていくかということこれから考えていきたいと思っております。

○赤坂委員 事務局にまたもう一つ質問、どうしても聞きたいことがあって、やっぱり成果指標のところなんです、5ページ、政策目標4の1番、「学びの機会や文化・芸術、スポーツに触れる機会」に対する市民の満足度は28.9%と低いですね。だけれども、私は茅ヶ崎に住んでいて、茅ヶ崎はこれが豊かだと。学びの機会や文化芸術、スポーツに触れる機会が非常に豊かであると感じています。それが茅ヶ崎の魅力だと思っています。何でこんなに市民の皆様は厳しい数字になるんでしょうか。予想で結構ですから、考えを教えてくださいませんか。

○企画経営課長 かなり多岐にわたる項目についてこの満足度を取っております。総じて、満足度が50%を超えとかというのはなかなかないというのが全体的な傾向があります。そんな中でも高い部分というのは、例えば自然環境の部分とか、海とか里山とかの満足度は少し高いような傾向があるというところが見えます。一方で、先ほどの子どもを育てやすい環境ですとか、今の文化の部分で30%前後の部分というのが、今ざっと見る中では平均的な状況かなというふうには思っています。なかなか満足度というのは感覚的なものがあったり、その時代の直近の課題とかに左右されてしまうこともあるので、指標としてなかなか難しいというところもあるんですけども、全体的に辛口の満足度をいただく中では、平均的な部分かなとは感じております。

○赤坂委員 分かりました。ありがとうございます。

○竹内教育長 全体を通しての感じとして考えていきたいなと自分は思っているところですが、この茅ヶ崎市に対して、大変魅力を感じていただいて、東京など近辺からも移り住まわれて、そういう点では茅ヶ崎市の魅力というものを見ていただいているのかなと思うんですが、こうした魅力をより高めていったり、持続していったりという点で、やっぱり教育の果たす役割は物すごく大きいなと。

それから、今赤坂委員が言われたように、文化ですとか芸術に触れる機会というのは物すごく大事ななというふうなことはすごく感じました。この2年間以上かかっているこのコロナ禍の中でどんなことが言えるかということ、やはり一人一人、人のつながりが弱くなっているのではないかという不安、それから学びの場が少し制限されているのではない

かなというのが、これで果たして、教育が充実した形で生き生きとできる社会を構築して、魅力ある社会というところに持っていけるかというところは一番重要な部分で、分かれ目ではないかなという気がしているんですね。

やはり教育は、このコロナ禍の中で感じたことは、ライフラインに近いのではないかと。人が生き生きと生きていく上では、教育の果たす役割はまさにライフラインなのではないかなと、途切らせてはいけないのではないかなというのを改めて感じました。そんなところで、ぜひ教育委員会で進めているようなことについては、その視点を持っていただけるとありがたいなというふうな思いはいたしました。

そして、今までは支援される、またはなかなか自宅から出られないそういう方たち、子どもも含めて、そういう配慮を要する方たちが活躍できることが社会のある意味底力につながって行って、多面的な力を発揮できる。そしてそれはより幸せな社会に近づいていくのではないかなというふうなことをすごく感じるんですね。ぜひ、この総合計画の実施計画を位置づける上では、そうした視点も持ちながら進めてまいりたいなというように思いしております。

○佐藤市長 他にございますでしょうか。よろしいですか。教育長にうまく締めてもらったので。

様々な意見をありがとうございました。時間の関係上、このあたりで区切らせていただきたいと思います。

会議の冒頭に申し上げましたとおり、本日ご協議いただいた事項に関しましては、今後の実施計画策定に当たりしっかりと反映させていきたいと思っておりますので、今日もありがとうございました。

昨日国会が閉まって、正式にこども家庭庁ができるということになりました。岸田内閣は、そこに予算をたくさんつけていくというけれども、結局、現場、市町村なんですよ。教育の現場も福祉の現場も今手いっぱいの状況で、予算をつけるから仕事をしろというのは、これが本当にできるのかどうかという疑問を実は持っております。もしかしたらこの実施計画にも影響があるかもしれないという大きな曲がり角に来ているのではないかなと。しっかりと国の動向も見据えながら、また教育委員会の意見をいただいて、実施計画はかちっとしますけれども、できるだけ柔軟な対応ができるように、お子さんのことですから進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、事務局より事務連絡をお願いいたします。

○教育総務課長 それでは、事務局より事務連絡を1点させていただきます。

今回の総合教育会議でございますが、10月20日の13時を予定しております。学校を視察していただくとともに、引き続き実施計画についてご協議をお願いしたいと考えております。ご連絡は以上でございます。

○佐藤市長 それでは、次回は10月20日ということでございます。皆様方、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして第1回総合教育会議を終了いたします。どうもお疲れさまでございました。